

(1) 地域公共交通調査事業の事業評価について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

資料 1

平成25年 月 日

協議会・構成員

本庄市交通政策協議会

本庄市、学識経験者、公共交通事業者(朝日自動車(株)、
国際十王交通(株)、本庄観光(株)、武蔵観光(株))、
交通関係者、市民代表、関係行政機関

事業名	調査事業の結果概要	調査事業実施の適切性	生活交通ネットワーク計画等の計画策定に向けた方針
記載要領	【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【調査事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、理由等記載】	【生活交通ネットワーク計画等の計画策定に向けた方針(補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載)】
生活交通ネットワーク 計画策定調査	<p>・地域公共交通の現状、市民の移動実態・ニーズを把握し、地域の課題を整理した上で、新たな地域公共交通の導入を検討した。また、市民や交通事業者等の意見を取り入れるため、交通政策協議会や市民説明会を開催した。</p> <p>・高齢者等の交通弱者の日常移動の支援を行うため、地域の需要特性を踏まえた交通サービスを提供する。また、このサービスを安定的に維持するための「しくみ」を創出する。</p>	A 地域内フィーダー系統確保維持事業に向け、ネットワーク計画策定に必要な調査ができた。	<p>平成26年度 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の申請を予定</p> <p>・本事業の目標としている市内公共交通ネットワークを構築するため、今回収集した基礎データやアンケート等を有効に活用し、クルマを運転しない高齢者などの交通弱者であっても市内を容易に移動できる交通環境を整える。具体的には、市内循環バスと山間部の路線バスを廃止し、平成25年10月からは、地域の需要に合致したデマンド交通(区域運行)を導入する。</p> <p>・駅を中心とする2つの市街地を連携するため、平成25年10月から駅間を結ぶシャトル便(路線定期運行)を導入する。</p>

【各評価項目の評価基準】

事業実施の適切性

- A...事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B...事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C...事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

平成24年度 本庄市地域公共交通会議 (埼玉県本庄市) (地域公共交通調査事業)

概要

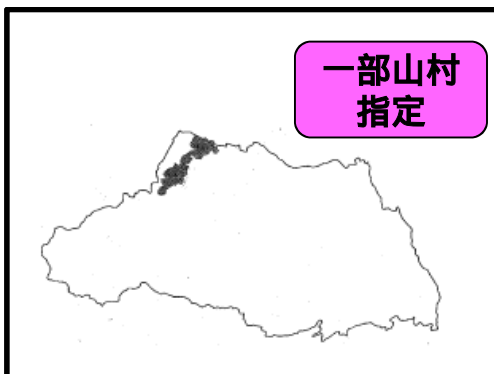
公共交通の概況

本庄市における公共交通には、JR高崎線(本庄駅)・八高線(児玉駅)・上越新幹線(本庄早稲田駅)の3つの鉄道路線、本庄駅と伊勢崎駅(群馬県伊勢崎市)、神泉総合支所(神川町)、寄居車庫(寄居町)を結ぶ路線バス、児玉地域の廃止路線代替バスと5事業者によるタクシー運行がある。また市内主要部には市内循環バス路線が運行されている。

市内循環バス路線は、運行本数が少ない等の使い勝手の悪さにより、利用者数の減少が著しく、また、廃止路線代替バスが運行している本泉地区では、バス停から離れたところにも集落があり公共交通不便地区が存在している。

市全体として、自家用車に対する依存度が高い傾向にあるため、今後の更なる高齢化の進展により、自家用車を利用できない高齢者の増加が見込まれている。

このため、市内公共交通ネットワークを充実させることで、公共交通不便地区を解消し、また、高齢者等の交通弱者の移動手段を確保する必要がある。



面積	89.71km ²
人口 (H25.4.1時点)	80,099人
15歳未満	10,209人
65歳以上	18,741人
高齢化率	23.40%
世帯数	32,394世帯

計画策定調査の必要性

市で運行している市内循環バスは、交通弱者の移動手段の確保には一定程度寄与しているものの、便利に利用できるものではないため、実態としては、循環バスが運行してはいるが、公共交通不便地区とかわりない不便な状況が発生している。

また、廃止路線代替バスが運行している本泉地区では、バス停から離れた集落が公共交通不便地区となっている。

今後予想される高齢化の進展に伴い、公共交通が不便な状況を解消しなければ、交通弱者の日常生活が維持できないため、民間既存バス路線を基軸とし、それを補完する利便性の優れた新たな公共交通サービスの提供が必要とされることから、市民の移動実態やニーズに係る調査を実施

協議会開催状況

協議会の開催状況 7回開催

- 第1回(3月28日) 調査事業の補助申請について
- 第2回(7月13日) 調査業務受託事業者の選定について
- 第3回(10月5日) 交通に係る現況について
- 第4回(11月12日) 公共交通網見直しについて
- 第5回(1月10日) 総合交通計画(案)について
- 第6回(2月22日) 総合交通計画(案)について
- 第7回(4月19日) 事業評価について

調査の内容

地域公共交通現状把握

東京都市圏パーソントリップ調査の集計結果を活用し、交通手段特性等の概要を明らかにした。

市民の移動実態・ニーズの把握

市民意識調査(1世帯あたり回答用紙を4枚送付。送付:3,000世帯、回答:1,110世帯・計2,442人)、駅利用者インタビュー調査(本庄駅:137人、本庄早稲田駅:157人)、バス利用者インタビュー調査(路線バス及び市内循環バスのバス停:136人)の実施により、市民の移動実態や公共交通に対するニーズを調査した。

新たに導入する地域公共交通の検討

民間路線バスを基軸として、それを補完する利便性の優れた新たな公共交通サービスとしてデマンド交通(区域運行)と駅間を結ぶシャトル便(路線定期運行)の導入を検討した。

地域公共交通会議及び関係会議の開催

交通政策協議会、及び本庄市総合交通計画(案)の市民説明会を実施し、公共交通ネットワークの見直しにおいて、市民や交通事業者等の意見を取り入れた。

調査事業の結果概要

- ・高齢者等の交通弱者の自立的な日常移動の支援を行う。(基軸となる民間路線バスへ接続できる。主要な商業施設や医療施設へアクセスできる。公共交通ネットワークを使いやすくするための「くふう」を行う。)
- ・需要の特性を踏まえた交通サービスを提供する。(公共交通不便地区の解消、縮小を進める。需要に見合った車両規模で運行する。)
- ・安定的な輸送サービスを持続的に提供できる「しくみ」を創出する。(地域全体で公共交通を支える。利用者に適切な負担を求める。評価を行い、改善する。)

生活交通ネットワーク計画等の計画策定の方針

- ・本事業の目標としている市内公共交通ネットワークを構築するため、今回収集した基礎データやアンケート等を有効に活用し、クルマを運転しない高齢者などの交通弱者であっても市内を容易に移動できる交通環境を整える。具体的には、市内循環バスと山間部の路線バスを廃止し、地域の需要に合致したデマンド交通(区域運行)を導入する。
- ・駅を中心とする2つの市街地を連携するため、駅間を結ぶシャトル便(路線定期運行)を導入する。

次年度以降の取組概要

- ・新たな公共交通サービス(デマンド交通、シャトル便)の運行に係る評価を行い、より地域の需要に合致したものになるよう見直しを進める。
- ・啓発活動等により、公共交通の利用促進を図る。

公共交通ネットワーク基本イメージ

市内循環バス



見直し

【新たな公共交通サービス】

駅や主要施設への移動など市街地の一定エリア内における面的な移動を担う交通

【鉄道・新幹線】

広域的な都市間の移動を担う交通

廃止路線代替バス
児玉総合支所～いろは橋
折返し場線(いずみ号)



見直し

【新たな公共交通サービス】

児玉地域市街地への移動など一定エリア内における移動を担う交通
(朝夕は通学バスとして機能)

【路線バス】

伊勢崎駅～本庄駅北口線

駅間を結ぶ

【新たな公共交通サービス】

本庄駅と本庄早稲田駅を結ぶ交通

【鉄道駅周辺】

交通結節点機能の充実
(交通手段間の円滑な乗継)

【路線バス】

鉄道駅に接続し、市内の主要拠点や隣接する自治体間の移動を担う交通

本庄駅南口～寄居車庫線

【路線バス】

神泉総合支所～本庄駅線

【路線バス】

児玉折返し場～本庄駅線

